



Hiroshima City University Language Center

広島市立大学語学センター
Newsletter No.62 (2019.3.29)



フランス語・ドイツ語

CEFR C1レベル^(注) 突破学生、合格への道のり

今年度、国際学部の学生2名がCEFR C1レベルの外国語試験に見事合格したという嬉しいニュースが届きました。

合格した国際学部4年の畑中直人さんはフランス語のDALF C1、同じく国際学部4年の信末航さんはTestDaf Niveau4 im Allen Teienです。留学を経てより高いレベルを目指し、努力が実った2人が、語学学習や今後の目標について語ってくれました。

目次：

フランス語・ドイツ語

CEFR C1レベル突破学生、合格への道のり

国際学部4年 畑中直人さん (フランス語) 1

国際学部4年 信末 航さん (ドイツ語) 2

<追悼>

大井 健地先生 名誉教授・芸術資料館もと館長

芸術・文学への熱をNewsletterに刻んで 3

「盲ろう者をお招きして」

国際学部 岩井千秋先生 4

FD・SD セミナー

「教室体験を兼ねた語学センター紹介」開催 4

フランス語 DALF C1

国際学部4年 畑中直人



レンヌ大学地理学部主催の交流会

◆合格した検定の内容 (DALF C1)

“DELF” と “DALF” は、フランス政府が認めた唯一の検定試験で、フランスの大学への入学・留学の際、語学力の証明になります。今回受験したC1の筆記試験では、同じテーマに関する記事を複数読んでまとめる「サンテーズ」と、意見文があります。口頭試験では、1つのテーマについて10分ほど発表し質疑応答を受けます。C1になると、単なる語学力ではなく思考力や理論的な考え方が求められます。

◆語学の学習方法

ラジオ (RFI) やテレビ (France 24) を視聴し、映画を字幕付き観賞したりもしました。交換留学以来続けている単語帳作成では、新しい単語に出会ったときは、単語の意味を書き記すだけでなく、類似語や対義語などその時に思い付いたものを一緒に書き留めています。また単語ごとのカテゴリー (環境系・社会系・政治系など) を作って、覚えにくい単語をまとめて覚えています。試験では、語彙力の多さや表現の言い換えも評価の対象になります。私も筆記試験の練習の時に積極的に取り組んでいましたが、より難解な表現・言い回しをすると失敗することがありました。前後の文章との繋がりや全体の一貫性について常に注意し、他者が読んで納得してもらえ文章を心掛けなければなりません。

◆合格への道のり

昨年11月の受験は帰国から1年以上経った後でした。日常での使用が限られている中、いかにモチベーションを保つのが最大の課題でした。一緒に試験勉強する仲間、指導してくれる先生や口頭試験の相手をしてくれるフランス人の友達のおかげで無事に合格することができました。

◆今後の目標や、語学への想い

語学力は一朝一夕では身に付きません。例えば、説得力のある意見文を書くためには、文章の流れや構成を捉えた「型」に沿った書き方をする必要があります。「サンテーズ」では主観的意見は含まず、文章を読んで自分が理解したことを他の語彙で言い換え、客観的に簡潔に伝える力 (200-250字) が必要です。これはまさに総合力ともいえるものでしょう。フランスの院に進学予定なので、今回の試験合格は現地での授業のためのスタートラインに立ったに過ぎません。次の目標に向かって勉強を続けていこうと思います。



レンヌ・サンタンヌの下で友人たちとお別れ会

(注) CEFR (Common European Framework of Reference for Languages) についての詳細は、次ページ (p.2) 下をご参照ください。

ドイツ語

TestDaf Niveau4 im allen Teilen

国際学部4年 信末 航



ベルリンの Berliner Dom の前で

◆合格した検定の内容 (TestDaf Niveau4 im allen Teilen)

TestDaf (Der Test Deutsch als Fremdsprache) はドイツだけでなく世界中で実施される国際試験で、ドイツ語圏における高等教育への進学、また学術的な職業に就くために必要な語学力を証明できる試験です。具体的に「読解」「聴解」「筆記」「口述」の四つで構成され、各パートで上からレベル5、4、3、不合格と評価されます。大学の入学許可で求められるレベルは各大学により異なりますが、4科目全てでレベル4を取れば、医学部などを除く基本的にどの大学のどの大学でも認められます。ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) によるとレベル4はC1に相当し、試験の内容、形式は英語試験の TOEFL、IELTS と似ています。しかし、他の試験と異なり、一つのパートでも不合格になれば全体の成績として認められないため、苦手分野を得意分野でカバーすることはできません。

◆語学の学習方法

人文科学、自然科学系の問題が全てのパートで出題されるため、幅広い分野の語彙を集める必要があります。ドイツニュースを読むのは当たり前で、ドイツの高校生向けの Abitur (センター試験) 対策の youtube ビデオを毎日見て、化学や物理の単語も抑えました。前提として、ドイツ語を学ぶことを勉強だと考えず、自分を取り巻くごく自然な空気だと意識しました。外国語を理解しようとするれば集中力を使いますが、人の集中力は長く持ちません。ネイティブと3時間自然に話し続けるためには、息をするのと同じように相手の言葉を耳に入れ、自分の言葉発し続けなければいけません。そのトレーニングとして、集中しないでもドイツ語が理解できるよう、「ながら学習」を取り入れています。料理に集中しながらドイツ語ラジオを流すなど、しかしラジオではなく料理に100%集中する意識を持たなければいけません。イチロー選手の、「意識を別のところに持っていく」練習法を参考にしました。

◆合格への道のり

留学時に B2 の試験を合格していたので、帰国1ヶ月後に C1 に相当するレベル4を狙って TestDaf を受験しましたが、リスニングの点数が足りなかったため、その半年後にもう一度受験して全てのパートでレベル4を達成しました。正直 C1 はあまり難しいと感じませんでした。1年間留学すれば合格できると思いますし、自分は現状に全く満足していないので、さらに上の C2 の取得を直近の目標としています。



旅行で訪れたラオスで象使いの研修を受けた時に乗った象と

◆今後の目標や、語学への思い

語学に限らず、全てのものは実践ありきだと思います。試験に受かったとしても、使える語学でなければ意味がありません。その意味では、大学でドイツ語とドイツの一部分を少しかじり、それを通じて学術的なトレーニングができたのは非常に良い経験でした。4月からは、ドイツ企業との取引が非常に多い、東京の商社で語学力を実践に取り入れて活躍していきたいと思っています。また仕事と並行して2年以内に C2 の取得を目指すなど、さらなる使えるドイツ語を身につけていきます。

CEFR (Common European Framework of Reference for Languages) とは、ヨーロッパ言語共通参照枠。A (初級) ~ C (上級) のレベル群内にそれぞれ2レベルあり、C1は「熟達した言語使用者」の中の「優れた言語運用能力を有する者・上級者」とされる。「英検」「仏検」「独検」共に1級レベル相当。各言語の資格との比較表は Wikipediaなどで参照できる。英語については、文部科学省サイトに対照表がある。(http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/30/03/_icsFiles/afldfile/2019/01/15/1402610_1.pdf)

追悼

大井健地 名誉教授・芸術資料館もと館長

芸術・文学への熱を Newsletter に刻んで

語学教務員 堀本 真由美



語学センター Newsletter No.7 (2000年2月10日) から No.60 (2018年10月12日) まで、18年以上の長きにわたり、連載を寄稿してくださった大井健地先生が3月1日にご逝去されました。語学センター Newsletter は不定期刊(年にほぼ3回発行)ですが、先生からの寄稿は54本にもものぼります。前号 (No.61) が初めての休載となり、今号、連載再開されるか、ご体調を確認しようと思っていた矢先の訃報でした。

語学センター Newsletter への寄稿について、同 Newsletter No.43 でご紹介した先生の著書「絵のまえ本のうしろ」には、こう書かれています。

「宇品島の突端にある高級ホテルで催された大学関係のある宴だったか後だったか、宴会場とグランドホールを結ぶ螺旋階段で、語学センターの堀本真由美さんに話しかけ、こちらがお願いするかたちで「HCU (広島市立大学) 語学・ニュースレター」にコラム欄を設け連載を始めたのは二〇〇〇年二月でした。

本書Ⅰ、Ⅱ章にその一―号(二〇〇一年五月)から四二―号(二〇一二年一月)までの十二年間三―回分を収載する。コラムのつもりが次第に長文化、ついには毎号一頁分の分量を予約するまでに肥大した。通常全四頁だから四分の一を語学の研究教育と無縁の僕(誌上では匿名)が占めるわけ。責任大だが担当堀本さんの御高配で今に至る。この「ニュースレター」は広島市立大学内で最優秀のミニコミ・メディアと信じる。」(大井健地『絵のまえ本のうしろ』溪水社2012、157-158頁)

広島市立大学在職中の大井先生は、オレンジ色のスーツを着ていらっしゃる、なぜかお名前が2つある(本名の“大井健二”とペンネームの“大井健地”)、なぜか国際学部と芸術学部の間いらっしゃる、という不思議な存在感のある先生でした。上記引用のとおり、突然寄稿の意欲表明をいただき、コラムを開始。原稿用紙またはFAXで寄せていただく記事はご退任後も在職中と変わらぬ筆勢で、年3回のNewsletterの発行を強く後押ししていただき、発行後にはいつも無事

発行の祝いと感謝、激励と共に、変わらぬ連載継続の意欲表明をいただきました。

毎回A4用紙5枚程度、時には10枚近くにも及ぶ力作が届き、難解な手書き原稿を入力して編集の後、校正が2~3回程度という作業でした。様々な執筆内容にともない、挿絵もその時々によって名画の引用であったり、先生が描かれたイラストであったり、実物の書籍が届いたり様々で、次回は一体何が届くのかというのが、編集者としての楽しみでもありました。

連載は1シリーズ4回の構成で、最終寄稿となったのは「失われた時を求めて美術館」の第2回、モネ<<睡蓮>>(語学センター Newsletter No.60)です。マルセル・ブルーストの記事は、その前のシリーズ「ブルーストの愛の絵を求めて」(語学センター Newsletter No.55-No.58)から始まり、先生は「失われた時を求めて」という聳え立つ大作の読破に、果敢に挑んでいらっしゃるいましたが、シリーズ半ばの未完となりました。

「ブルースト『失われた時を求めて』は尖鋭で緻密な大古典で、小生のなまくらな、ヤワな筆ではなかなか切り込めない。苦勞してます。」(2016.9.21付書簡)

【大井健地先生、語学センター Newsletter 連載シリーズ再掲】 *カッコ内は掲載号

- 天重の隅っこ (No.7-10)
- 文学のトンネル (No.11-14)
- 恋の文学トンネルズ (No.15-18)
- 樹上トンネル図会 (No.19-22)
- 裏切りトンネル訳話 (No.23-26)
- トンネル版 aQ 伝 (No.27-30)
- ヒロシマ人宛書簡 (No.31-34)
- 周一四方のまなび (No.35-38)
- イタリア美術巡礼 (No.39-42)
- 社内装丁 (No.43-46)
- 詩のお弁当 (No.47-50)
- BD連帯画文エチュード (No.51-54)
- ブルーストの愛の絵を求めて (No.55-58)
- 失われた時を求めて美術館 (No.59-60)



『失われた時を求めて』をテーマとするシリーズは、闘病中の先生のどのような想いが込められたものだったか、と改めて想いを巡らせ、突然お預かりすることになった連載終了、追悼記事の最後に、先生の著書のうしろがきの、締め括りの文章を引用します。

「良い偶然だったなあと思えるように、また会おうじゃないか、絵のなか本のなかで、そしてまた美術館とか図書館裏で。二〇一二年三月十六日 大井健地」(『大井健地『絵のまえ本のうしろ』溪水社2012、160頁)

改めて大井先生への感謝の意を表しますと共に、先生が情熱を注がれた芸術・文学が、これからの学生にもインスピレーションや力を与え、豊かな人間性を育んでくれることを願います。

* 大井健地先生に寄稿いただいた連載シリーズは、語学センターホームページの Newsletter ページでご覧いただけます。

応用言語論特別講義の報告―「盲ろう者をお招きして」

国際学部 教授
岩井 千秋

国際学部の特別講師招聘制度を使って、私の応用言語論の授業（1月11日）に盲ろう者の川空礼将さんを特別講師としてお招きしました。目、耳が不自由な人と言えば、多くの方がヘレン・ケラー女史（1880～1968）を思いつくことでしょう。でも、日常的に私たちがそういう人と接することは稀です。私自身、ろう者とはこれまで何度か交流の機会がありましたが、盲ろう者となると今回が初めてです。この招聘には2つの理由・目的がありました。ひとつは、英語のようなハイパー言語（ハイパーはスーパーよりももっと上位の概念）の対局にある少数言語に目を向けることの大切さを、身近な事例で受講生と一緒に学びたかったこと。もうひとつは人間が備えるコミュニケーション能力が、いかに精巧でかつ魅力に満ちているかを知ることでした。

とは言いつつも、恥ずかしながら、私は盲ろう者のコミュニケーション手段については、本やネットで得た程度の知識しか持ち合わせていませんでした。当日は、横川駅まで車でお迎えに行きましたが、うまく出会えるかどうか不安で一杯。幸い、福祉協会に登録されている通訳介護士にご一緒いただき、事なきを得ました。

さて、盲ろう者のコミュニケーション手段ですが、主に触手話、手書き文字、そして点字の3つのタイプがあるようです。まず、触手話ですが、これの多くは日本語手話が基本になっていることを今回知りました。手話に取り組んだことがあれば、かなり理解できます。手書き文字は、手のひらに文字を書く方法ですが、川空さんがこれを使われている場面を今回の特別授業では見かけませんでした。そして最後の点字ですが、これにはプリスタという特殊なタイプライターが用いられます（ちなみに点字は英語ではBrailleですね。）最近ではメールでのやり取り用に特殊なプリスタが開発されていて、授業でこの機器を見せていただきました。川空さんがどのようにして私とメールでやり取りされているのか疑問に感じていましたが、これを拝見し、その謎が解けました。近年のハイテク機器は目や耳の不自由な方にも重宝されているようです。

さてその特別授業ですが、川空さんが触手話で講義、通訳介護士を介してそれをお聴きするという方法でした。川空さんはいわゆる中途盲ろう者で、小学校入学までに耳、目の順で音と光を失われたそうです。その後の川空さんのご苦労は我々には簡単には想像も理解もできませんが、幾多の障害を乗り越え、小学生のときから柔道に取り組んでこられたことは驚き以外の何ものでもありませんでした。話は日常生活のこと、触手話の習得方法、柔道の練習方法、日常生活で周りの人に望むことなど、多岐にわたりました。質疑応答の時間を設けましたが、質問が矢継ぎ早に出てきて時間が足りなくなり、質問や感想を文書で提出してもらうことにしました。後日、それを川空さんにお送りしたところ、僅か3日後には一つひとつの質問に丁寧に回答して、メールでご返事をいただきました。受講生の感想には私も全部目を通しましたが、柔道で培われたと思われる川空さんの明るい性格と話好き、そしてその生き様に受講生の多くが感動するとともに、この授業企画を高く評価してもらったようです。

ところでこの川空さんと面識ができたのは、私が顧問をしている手話サークルにかつて在籍した梁谷侑未さん（芸術学部卒業生）を介してです。ろう者の梁谷さんには在学中に手話サークルを随分盛り上げてもらいました。本当にいい出会いを作ってください、心から感謝しています。なお、この企画ですが、好評につき、できれば来年度もまた川空さんをお願いしてみたく思っています。また、手話に関心のある方は、手話サークルの活動に気楽に立ち寄ってみてください。手話もひとつの言語です。身近で様々な異文化体験ができ、社会の問題を考えるきっかけにもなること、請合いです。



川空さんによる特別講義の様子
(正面中央が川空さん、その右が通訳介護士)

■FD・SDセミナー「教室体験を兼ねた語学センター紹介」を開催しました

3月26日（火）13時から、語学センター404教室において、FDSDセミナーを開催しました。年度末の開催で参加者人数は少数でしたが、CALL教室機能体験や良い英語コミュニケーションのポイントの紹介があり、発見につながるセミナーになりました。

演題及び講師 「CALL教室セミナー」 語学教務員 堀本 真由美
「English Communication」 国際学部准教授 Luke CARSON



発行日	2019年3月29日	Phone	(082)830-1509
発行	広島市立大学語学センター 〒731-3194 広島市安佐南区大塚東3-4-1	Fax	(082)830-1794
編集	堀本真由美、沖野佳代（内線：6410）	E-mail	lang@m.hiroshima-cu.ac.jp
		ホームページ	https://call.lang.hiroshima-cu.ac.jp/lang/index.html